令和３年度　入学生用　〔　数　学　科　〕シラバス

北海道北見緑陵高等学校

教科	科目	単位数	種別	年次	
数学	数学Ⅰ	3	必修科目	1年	
使用教科書	新編　数学Ⅰ（数研出版）			担当者	

学習目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
学習方法	授業は教科書の例題、練習問題中心に行い、問題集で補足する。 家庭学習において問題を解き、授業の復習をし授業内容の理解を深める。
学習評価	

育成を目指す資質・能力		育成を目指す資質・能力の評価内容
1	基盤的学力	文章を読み解き、対話により意見や考えを他者と交わすことができる。
2	問題発見・解決能力	問いを立て、解決に向かうことができる。
3	情報活用能力	情報を活用し、問題発見・解決や自分の考えの形成に役立てることができる。
4	主体的判断能力	物事を多面的に吟味し、主体的に判断・行動することができる。
5	協働力	他者を尊重し、協働することができる。
6	自律力	規範意識をもって自律的に行動することができる。
7	実践力	自ら考えて行動し実践することができる。
8	自己認識力	自分の思考を客観的に捉えることができる。

以上の観点をふまえ、
・8つの観点で学習の状況を総合的に評価。・定期考査の成績、課題やレポートの取組状況、授業への参加態度などから総合的に評価。

担当者から

月	大単元	単元（題材）	学習内容	重点評価事項(資質・能力) 1	2	3	4	5	6	7	8	単元（題材）の評価基準	評価方法
4	数と式	式の計算	整式の加法と減法	○					○			整式の加法・減法・乗法の計算ができる	学習活動への取り組み
4			整式の乗法	○					○			整式の展開・因数分解の公式を利用することができる	課題への取り組み
4			因数分解	○	○				○				問題集の取り組み
5		実数	実数	○			○					有理数と無理数の違い、平方根の意味・性質を理解している	小テスト・単元テスト
5			根号を含む式の計算	○					○			根号を含む式の計算と分母の有理化ができる	定期考査
6		1次不等式	不等式の計算	○					○			不等式の性質、不等式の解の意味・性質を理解している	
6			1次不等式	○					○			1次不等式を解くことができる	
6			絶対値を含む方程式・不等式	○		○				○		絶対値を含む方程式。不等式を解くことができる	
7	集合と命題	集合と命題	集合	○			○					ベン図等を利用して集合を視覚的に表現して処理することができる	
8			命題と条件	○			○					命題の真偽、凡例の意味を理解している	
9			命題とその逆・裏・対偶	○			○					必要条件、十分条件、必要十分条件の判別ができる	
9			命題と証明	○						○			
9	2次関数	2次関数とグラフ	関数とグラフ	○	○	○						2次関数の特徴をとらえ、グラフをかくことができる	
9			2次関数のグラフ	○			○						
10		2次関数の値の変化	2次関数の最大・最小	○	○							2次関数の最大・最小を求めることができる	
10		2次方程式と2次不等式	2次関数の決定	○	○							与えられた条件から2次関数の式を求めることができる	
10			2次方程式	○					○			2次方程式・不等式をグラフを利用して解くことができる	
10			2次関数のグラフとx軸との位置関係	○			○						
10			2次不等式	○					○				
11	図形と計量	三角比	三角比	○		○						三角比の意味や基本性質を理解している	
11			三角比の相互関係	○	○								
11			三角比の拡張	○	○								
12		三角形への応用	正弦定理	○		○			○			正弦定理、余弦定理、三角形の面積の公式を理解し路用することができる	
12			余弦定理	○		○			○			正弦定理、余弦定理を利用して、三角形の辺や角の大きさを求めることができる	
12			正弦定理と余弦定理の応用	○							○		
12			三角形の面積	○		○			○				
12			空間図形の応用	○						○			
1	データの分析	データの分析	データの整理	○		○	○					データのの代表値の定義を理解している	
1			データの代表値	○		○	○						
2			データの散らばりと四分位数	○			○			○		箱ひげ図を利用して、データの分布を比較することができる	
2			分散と標準偏差	○			○		○			データの分散と標準偏差を計算できる	
3			データの相関	○					○		○	相関係数を求め、データの散らばりを知ることができる	